

平成13年 9月10日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西 田 良 一

平成14年度新規概算要求主要事項について

このことについて、別紙のとおり送信いたします。
なお、お問い合わせについては、各事項ごとに照会先を掲載しておりますので直接
ご連絡ください。

[発信枚数;A4版 6枚(本票含む)]

[平成14年度新規概算要求主要事項](#)

平成13年 9月10日
広島大学

広島大学における平成14年度概算要求で、入学定員に関するものは下記のとおり。
(8月末に文部科学省から財務省へ概算要求されたもののうち、本学関係分)

記

1. 大学院講座化に伴うもの

- 医学系研究科 (M34、D76) ㄗ 医歯薬学総合研究科(新設)
 (保健学専攻を除く) |→(M43、D115)
 歯学研究科 (D30) ㄝ
 「医学系研究科」保健学専攻は、「保健学研究科」保健学専攻へ改称

- 生物圏科学研究科(M99人、D29人 → M125人、D62人)

関連学部の入学定員の改訂

- 生物生産学部 Δ10人

2. 学外の研究機関との連携による大学院教育の推進(連携大学院方式)

- 国際協力研究科 開発科学専攻 M1人、D1人

3. 第3年次編入学定員の増(10人)、第1年次入学定員の減(Δ10)

- 経済学部 昼間コース 第3年次編入学定員の増 10人
 夜間主コース 第1年次入学定員の減 Δ10人

[次ページへ](#)

[戻る](#)

○医歯薬学総合研究科の新設

(要求要旨)

近年、急速な国民の高齢化や生活習慣の変化は我が国における疾病構造を変化させ、高度で先進的な医療の開発が、社会から強く要請されている。

こうした社会の要請に応えるため、今後求められる医学・歯学・薬学の知識を統合した上で、全人的医療を行える医療人の育成等を目指し、医歯薬学総合研究科の基礎となる学部講座を大学院講座に転換し、現在の医学系研究科のうち、保健学専攻を除いた8専攻と歯学研究科1専攻から1研究科3専攻に改組・再編を行い、大学院に重点を置いた組織に整備することで、教育研究の更なる拡充、発展を図る。

なお、医学系研究科には、保険学専攻が残ることから、医学系研究科を「保健学研究科」に改称する。

(入学定員要求内訳)

平成13年度

研究科・専攻名	入学定員	
	前期	後期
医学系研究科	人	人
生理系専攻		14
病理系専攻		12
社会医学系専攻		8
内科系専攻		13
外科系専攻		17
分子薬学系専攻	10	3
生命薬学系専攻	8	2
臨床薬学系専攻	16	7
歯学研究科		
歯学系専攻		30
計	34	106

平成14年度

研究科・専攻名	入学定員	
	前期	後期
医歯薬学総合研究科	人	人
創生医科学専攻		57
展開医科学専攻		46
薬学専攻	43	12
計	43	115

医学系研究科	人	人
保健学専攻	34	17

保健学研究科 (改称)	人	人
保健学専攻	34	17

本件に係る照会先

・保積医学部総務課長

TEL. 082-257-5004

・丹根歯学部長

TEL. 082-257-5600

[次ページへ](#) [前ページへ](#)

○生物圏科学研究科の整備

(要求要旨)

21世紀の生物圏科学研究科に求められるのは、地球規模で深刻化している環境問題と食料問題への対応であり、急速に情報化・グローバル化が進展する社会にあつては、俯瞰的な視野をもって学際領域を統合的に理解し、問題解決に貢献できる人材を養成することである。こうした社会の要請に応えるために、生物圏科学研究科の基礎となる学部講座を大学院講座に転換し、現在の4専攻(28教育研究分野+3講座)から3専攻(11講座)に改組・再編を行い、大学院に重点をおいた組織に整備することで、教育研究の更なる充実と発展を図る。

(入学定員要求内訳)

平成13年度

専攻名	入学定員	
	前期	後期
環境計画科学専攻	20人	4人
生物機能科学専攻	16	3
生物生産学専攻	32	7
(独立専攻) 環境循環系制御学専攻	31	15
計	99	29

平成14年度

専攻名	入学定員	
	前期	後期
生物圏共存科学専攻	43人	21人
生物資源開発学専攻	51	26
環境循環系制御学専攻	31	15
計	125	62

→

○生物生産学部入学定員の改訂

生物圏科学研究科の改組に当たり、生物生産学部生物生産学科の入学定員を10人減じる。

平成13年度

区分	入学定員
海洋生物生産学 生物圏機能学 畜産科学 食糧情報管理学 分子細胞機能学 食資源機能学	100人
共通	[10]
合計	[10] 100

平成14年度

区分	入学定員
生物圏環境学 海洋生物生産学 動物生産科学 食品科学 生物機能開発学	90人
共通	[10]
合計	[10] 90

→

[]書きは、第3年次編入学定員で外数。

本件に係る照会先
・山本生物生産学部長
TEL. 0824-24-7900

[次ページへ](#) [前ページへ](#)

○国際協力研究科 開発科学専攻

(要求要旨)

国際協力研究科開発科学専攻の経済開発分野は、アジアを中心とする発展途上国の経済社会発展に貢献できる人材の養成を行っているが、貧困問題、紛争、環境問題等に対処できる人材を養成することが重要であり、これに応えるためには、長年の研究調査実績を有している研究機関と協力することにより、大学院教育の充実を図ることが必要不可欠である。

アジアを中心とする発展途上国の歴史や現実に関して豊富な調査研究実績を持つ特殊法人日本貿易振興会 アジア経済研究所と連携を組むことで、途上国の実態に促した教育のより一層の充実をはかることができる。

平成13年度				平成14年度			
研究科名	専攻名	入学定員		→	入学定員		
		博士課程 前期	博士課程 後期		博士課程 前期	博士課程 後期	
国際協力研究科	開発科学専攻	42人	21人		43人	22人	
	教育文化専攻	28	14		28	14	
計		70	35		71	36	

本件に係る照会先
 ・中山国際協力研究科長
 TEL. 0824-24-6900

[次ページへ](#) [前ページへ](#)

○第3年次編入学定員の増、第1年次入学定員の減

(要求要旨)

近年、生涯学習への社会的要請が高まる中で、高等専門学校や短期大学の卒業者を含む社会人に対し、多彩でより高度な教育が受けられる機会を提供することが、強く求められている。このような需要の高まりを受けて本学においても経済学部において、第3年次編入学定員(10人)を設定する。

なお、編入学定員の設定に併せて同数の入学定員(第1年次分)を夜間主コースから削減する。

○経済学部

平成13年度

区分	入学定員
	第1年次
経済学科 (昼間コース)	150人

→

平成14年度

区分	入学定員	
	第1年次	第3年次 編入学
経済学科 (昼間コース)	150人	10人

平成13年度

区分	入学定員	
	第1年次	第3年次 編入学
経済学科 (夜間主コース)	70人	10人

→

平成14年度

区分	入学定員	
	第1年次	第3年次 編入学
経済学科 (夜間主コース)	60人	10人

本件に係る照会先
 ・平木経済学部長
 TEL. 0824-24-7260

[前ページへ](#)